

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
免疫検査学Ⅱ	2年次	必修	講義	1単位（30時間）	小松 博義
授 業 概 要					
抗原抗体反応の臨床検査法への応用、生体内免疫反応と臨床検査及び検査値の考え方を修得し、臨床検査技師として臨床微生物学や血液検査学など他分野との繋がりを持った知識を修得する。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の免疫学を理解できる。 ・腫瘍免疫、移植免疫を理解できる。 ・免疫不全となるメカニズムについて理解できる。 ・アレルギー疾患、自己免疫疾患について理解できる。 ・免疫学的手法による臨床検査方法を理解するとともに、免疫学の進歩に伴う新しい検査法の原理とその応用技術に関して理解できる。 					
実務経験のある教員					
小松 博義：病院での臨床経験を踏まえ、免疫と感染症および検査に関する知識について概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	感染症と免疫 1：ウイルス性肝炎				小松 博義
2	感染症と免疫 2：レトロウイルス及びその他の感染症				
3	感染症と免疫 3：梅毒				
4	腫瘍免疫について				
5	免疫不全症：AIDS、ATL 等				
6	アレルギー疾患 1：総論、アレルギーⅠ型				
7	アレルギー疾患 2：アレルギーⅡ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型				
8	自己免疫疾患：発生機序と各種疾患				
9	免疫グロブリン異常症について				
10	免疫学的検査法 1：試験管内抗原抗体反応検査（反応：沈降、凝集、溶解）				
11	免疫学的検査法 2：試験管内抗原抗体反応検査（反応：補体結合、中和）				
12	免疫学的検査法 3：生体内抗原抗体反応				
13	免疫学的検査法 4：標識抗体法				
14	免疫学的検査法 5：免疫化学的定量法				
15	免疫学的検査法 6：細胞性免疫機能検査				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や配付資料により予習と復習をすると理解が深まる。 ・講義は教科書及び配付資料をもとに実施し、適宜、視聴覚教材を用いて講義する。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・月曜試験を実施する。 ・遅刻や欠席等で月曜試験を受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。 ・定期試験(70%)及び月曜試験(30%)により評価する。 ・再試験は月曜試験の内容を合わせて出題し、これを評価する。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>[教科書]</p> <p>臨床検査学講座 免疫検査学（著者：窪田哲朗 出版：医歯薬出版株式会社）</p> <p>病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症（著者：森尾知宏 出版：MEDIC MEDIA）</p>					